

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101436&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>長期入所の利用者は全般的にADLの低下傾向にあります。公平に仲良く楽しい生活が送れるように一人ひとりの能力に合わせた介助を行っています。又、社会性の維持が図れるように地域との交流を深めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、市街地の木造家屋で、古き良き時代をしのばせる外観である。内部はエレベータや、手すりが要所にあり、利用者の残存機能に合わせた生活の場となっている。「利用者が安心して最期まで暮らせるように」かかりつけ医や訪問看護師との24時間体制を取り、6例の看取りを経験している。市街地にあることから、ほぼ毎日、商店や昔から馴染んだ町の風景に触れながら、楽しい生活が送れるように、一人ひとりの思いに寄り添い、心のこもったケアを実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人スタッフには理念を伝え理解してもらい、現任者とミーティングや申し送りでも確認しあうようにしています。	「出会い・ふれあい・学び合い」というホーム理念は、玄関に掲示するだけでなく、毎日のミーティングでも確認し合い共有している。地域との交流を深めながら社会性が図れるよう、利用者にとって一番よい生活環境を目指し、日々努力を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週二回のごみ収集日に鳥よけネットを出し掃除を行います。又オムツ処理のため近所の2件から新聞を頂いています。	自治会に加入しており、町全体が高齢化している中、ゴミ収集場の掃除も兼ね、地域への貢献活動も行っている。市街地にあるため、商店への買い物や散歩時に、地域住民と気さくに挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について議題を取り上げたり、外での立ち話で話題にのぼることがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず地域の人に参加してもらい校下の情報を聞いて交流につなげたり、処理困難な事例について共に考えてもらい実践に生かしています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、行政・地域包括支援センター・民生委員・家族代表で行われている。事業運営報告に留まらず、出席者からは、情報提供や運営上の困難事例を検討してもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況を毎月報告しています。運営推進会議では毎回出席してもらい指導してもらいます。	行政とは、ホームの現状や空室情報・利用者の状態や火災についての相談など、幅広く話し合える関係を築いている。地域包括支援センターとも、生活保護適用者の受け入れ等、いつでも相談ができる体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していません。権利擁護を認識した取り組みを行い、拘束はしていません。	身体拘束について内部研修を行い、全職員は拘束についての意味を理解した上で、拘束のないケアを行っている。玄関は施錠せず、出てゆく人にはさりげなく付き添ったり、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会を実施しました。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見利用者2名、権利擁護利用者1名が入所されています。支援員の方に質問をしたりして理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、丁寧に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に毎回参加していただき意見を伺います。月1回の近況報告を送付しています。	家族の訪問時や、満足度調査を行い、意見や希望を聞いている。また、家族会を年2回行い、家族同士が気楽に意見が言えるような場を設けている。しかし、家族からの意見・要望は少ない。	家族の意見が少ないのは、信頼関係ができていなくてもある。反面、遠慮していることもあるので、職員から、さり気なく問いかけ、外部者に表せるような工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回各々が代表者と話し合う機会があります。	管理者は、定期的な会議の中で、職員の意見を聞いている。また、代表者が年に2回、個別に面談し意見を聞く機会を設けている。待遇改善・環境整備・研修参加等の要望もあり、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給や年2回の寸志等考えています。ハード面での環境整備にも対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには1ヶ月の研修を行っています。研修への情報を多く発信しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームに実習にきてオープンしたグループホームと情報を交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接及び情報収集に努めています。本人の希望や困っていることを傾聴して支援につなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解してホームとしてどのような対応が出来るか事前に話あいをします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が困っていることに対しては、出来ることはすぐに対応して出来ないことは地域包括に相談に乗ってもらいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本方針「出会い 触れ合い 学びあい」のもと、お互いが協同しながら生活を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や柳ヶ瀬便りなどで情報を共有しながら協力を得ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の眼科、美容院、歯科を現在も利用している方や、仕事仲間だった人との交流を続けている方もいます。	友人や知人が気軽に訪れている。お茶を飲みながらゆっくり会話を楽しんでもらっている。馴染みの美容院、行きつけの商店や歯科医へは、古くからの関係を継続できるよう同行支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくようにスタッフが調整を図り、相互交流を心がけています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで亡くなられた方の家族が、お墓参りで岐阜に立ち寄った時やデパートに買物に来た時に今でも来所される機会が多いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言葉で表現できない利用者には表情や態度を読み取り対応しています。	日々のケアの中で、思いや意向を把握している。言葉での表現が困難な人は、表情や態度から読み取っている。把握した思いは、職員間で共有し、生活のなかで配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身から聞いた話しや家族、知人等が来訪された時に聞いて把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人ひとりの体調、生活リズムを理解して生活全般を把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりのなかで思いや不安を聞き、ミーティングで意見交換をしてカンファレンスを行っています。	3ヶ月毎に、全職員で検討会議を行い、意見を反映した介護計画を作成している。急変時や体調に変化が見られる際は、随時見直している。見直しには、かかりつけ医の意見を取り入れ、利用者と家族の要望を優先させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを共有して本人の言葉や様子等、日々の生活を観察しています。食事介助や排泄など身体的介助も記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々の変化や重度化していく状況に臨機応変に対応しています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活ができるように地域の人との交流を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医と24時間対応の契約を結び、いつでも適切な医療を受けられるような体制が確立されています。	利用者の全員が、ホームの協力医を、かかりつけ医としている。月に2回の往診を行い、訪問看護も月に2回、来訪している。協力医とは、24時間の連絡体制を築いており、本人と家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受けています。又、緊急時や不安な点がある時は随時問い合わせをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるADL低下や認知症進行の予防のため、医療機関、家族と連絡を密に取り情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての基本方針を文章で説明して、それぞれの関係者と話し合い支援を支援しています。	開設以来10年間で、6例の看取りの実績がある。高齢に伴う自然の経過を深く受け止め、看取りの受け入れ方針を家族にも説明し、同意を受けている。医療行為が必要になった時点で、かかりつけ医の意見を聞き、その医療行為がホームで可能かどうかの判断をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてミーティング時等、機会がある度にマニュアルの確認を行い周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っています。今回は歩けない利用者の救出方法を訓練しました。	年に2回、夜間を想定した避難訓練を行い、職員それぞれに災害時の役割(連絡・消火・誘導・人数確認)を決め、利用者や地域住民も交え、防災訓練を行っている。広域的な避難場所を家族に伝えたり、歩行困難な人の救出法なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に運営方針について話し合い、その中で利用者の尊厳やプライバシー厳守を再確認しています。	居室入室時のノック、トイレ誘導時や入浴時などの声かけは小声でささやくなど、日々の中での言葉かけや対応に気配をしている。職員の業務を優先させないよう、その人その人の尊厳に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定できる場面作り、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れがありますが、各自の状態を配慮してその時の本人の気持ちを大切に個別支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	等身大の鏡を設置しているのでその前で服の乱れを確認したり整髪している利用者が多いです。希望者には出張美容を頼んでいます。又、日曜日には爪切りを励行しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL低下により一緒に行ったり食事を取る機会がもてなくなりつつあります。現在は食事介助者が3名います。	昨年の課題であったテーブルの高さは、見直され、改善されている。トロミや刻みなど、利用者の状態や好みに合わせた食事を提供し、喜ばれている。食器拭きや野菜の下準備・片付けなど、できることは利用者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサーのトロミ食の利用者が2名いて一品づつミキサーにかけています。水分は1日の摂取量を目安に、こまめに補給することを心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、昼食後はうがいをして夕食後は歯磨きをしています。トロミ食の利用者はスポンジの使い捨てで口腔内の洗浄を行っています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使わない介護をモットーにしてきましたが、利用者の全体的な高齢化に伴い必要とする人が増えました。現状は1人ひとりの排泄パターンを把握して支援しています。	個々の排泄パターンを把握し、こまめなトイレ誘導で、自立を支援している。その人に合った、下着や紙パンツを使用し、こまめに声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録して情報を共有しています。毎日の日課でおなかすっきり体操をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めていますが、別の日に入りたい希望者にはそのように対応しています。入浴をしない人には足浴をしています。	入浴は隔日に行い、利用者の希望や体調によっては、柔軟に対応している。重度化した人も、職員配置を考慮した上で2人で入浴介助し、ゆったり楽しい気分になるよう支援をしている。また、状態によっては、足浴や清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を習慣としている利用者がいます。体力低下の方には入浴を考慮して、午前中に臥床休息を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりのファイルを作り服薬確認できるようにしています。服薬時には本人に手渡しして飲んだことを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、片付けなど自然にホーム内の役割分担が出来ています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課になっています。能力に合わせて散歩コースを本人と決めています。花見など遠出することもあります。	日々の散歩や外出は、ほぼ毎日のように行われている。近所の八百屋や駄菓子屋、雑貨屋への買い物にもあわせて行っている。花見など遠方への外出には、家族の協力で出かけている。外出で、利用者の笑顔を増やす取り組みを継続している。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中で買物をする人もいて、自己管理している利用者もいます。紛失する人は預り、出かける時に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる利用者もいます。宛先が間違っていないか確認をしています。携帯電話を持っている人もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った作品を部屋に飾ったり、談話室に展示している作品を家族に自慢気に見せている利用者もいます。	元美容院という建物であるが、昭和を思わせるような雰囲気となっている。建物内は、トイレ・浴室・エレベーターなど、利用者が使いやすいよう改築されている。リビングでは、利用者がゆったりとソファでくつろぎ、心身ともに安らぎが得られる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルひとつをいこいの広場、2階のスペースを仲良しコーナーとして活用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた道具を持参してもらいます。自立度の高い人で自分の好みに工夫している利用者もいます。	各居室は、間取りや広さなど様々である。おのおの使いやすいように家具やベッドが配置されており、思い出に繋がる写真や作品が飾られている。利用者はリビングと居室を行き来し、自由に暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化に応じて、手摺をつけたり目印をつけたりしています。		